

うだ まさし (monom)

所在地：大字野巻145-3
平成23年11月創業

平成23年11月に町内に移住し創業された木工作家「うだ まさし」さんを黒澤町長が訪問しました。



独立創業をきっかけに町内に移住しました。工房の建設を手伝っていただいたり、忙しい時には近所の方に子供を預かってもらったり、地域の温かさを感じています。昔ながらの地域の繋がりが大切にされており残してもらいたい文化だと思います。静かでゆっくりとした時間が流れる皆野町が大好きです。

桜や栗の木でスプーンやフォーク、器など、日常に寄り添うものを手作業で制作し繊細で温かみのある仕上がりが魅力です。

「日々使うものは使いやすくて触りたくなるもの」をモットーにモノづくりに取り組んでいます。また、木は使用することで経年変化も楽しめます。自宅併設のギャラリーショップを月2回オープンしていますのでぜひお越しください(予約制)。



※町内でがんばる企業を町長が訪問します。訪問を希望される場合は産業観光課(☎62-1462)へお問い合わせください。

#みんなで皆野のなかまたち

“みんなで”取り組む“皆野”のまちづくり。活動の一部をご紹介します。



えいこし のぶき
永越 信樹

出身 東京都

就任 令和7年10月1日

私は集落支援員として、高齢者の皆さんを訪ねてお話を伺ったり、ちょっとした困りごとに耳を傾けたりしながら、生きがいややりがいにつながる時間をいっしょにつくっていかれたらと思っています。皆さんが長い年月の中で育んできた文化や自然、暮らしの知恵は、どれも地域の宝物です。その知恵を生かすことで、地域の活性化にもつながると感じています。

私が以前暮らしていた中津川を紹介してくれたのも、実は皆野町のかたでした。再び皆野町に戻ってくると景色も暮らしも違って見え、自分の感じ方も変わったのだと気づきました。皆野町には、地名の由来や昔からの風習など、今も不思議で魅力的なものがたくさん残っています。

しかし、以前なら気軽に尋ねられたかたが、いつの間にかいなくなってしまうことも増えました。失われてしまえば二度と触れられない記憶や文化を、未来につなぎたい。そんな思いから、毎月「皆野のむかしを語ろう会」を開催しています。昔の暮らしを語り合うこの時間は、孤立を防ぎ、見守りにもつながる大切な場です。皆野町らしさを未来へつなぐために、どうか皆さんの知っていることを、少しずつ教えてください。

「皆野のむかしを語ろう会」で聞いた話をご紹介します

端午の節句の際には、自分の持ち山から杉を伐採してきてそれを旗竿とし、庭に穴を掘ってその杉の旗竿を立て、鯉のぼりをあげた。その鯉のぼりは、父親が岩槻まで行って求めたものだった。

女の子は羽子板を贈られるが、男の子の場合は破魔矢を贈られた。正月以降も、玄関に飾っておくものだった。他所から嫁いできた姑さんが「正月でもないのだから、仕舞うように」といったが、お年を召して玄関に出てくることもなくなったので、そのまま飾っておいた。

「むかしはこんな風習があった」「皆野町では毎年こんなことをしていた」など、ぜひお話を聞かせてください。皆さんとお話できるのを楽しみにしています。次回開催についてはP.14をご確認ください。